

林 重雄¹：愛知県田原市にオヒルギ果実の漂着

Shigeo HAYASHI¹ : Fruit of *Bruguiera gymnorhiza* (L.) Lam. stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

ヒルギ科のオヒルギ属 (*Bruguiera*) はマングローブに生える常緑の高木である。種子は胎生で果実の落下前に発芽する。分布域は東部アフリカ、熱帯アジア、オーストラリア、太平洋諸島に6種類を産し、日本にはその内の一種オヒルギ *Bruguiera gymnorhiza* (L.) Lam. が野生する (瀬戸口 2016)。オヒルギはアカバナヒルギやベニガクヒルギとも言われ、分布が広く奄美大島から琉球列島、台湾、熱帯アジア、オーストラリア、太平洋諸島、東アフリカに分布する。胚軸は太目の紡錘状円柱型で長さ15~25cm、幅1.5~2cmとなる (牧野 1996; 中西 1999; 中山ほか 2000; 瀬戸口 2016)。*Bruguiera cylindrica* (L.) Blume. は分布域がオヒルギと重なる地域があるが、胚軸が15cmほどと小さく、直線的なオヒルギよりもややカーブしている (Mangroves of Singapore ホームページ)。オヒルギの分布域以外での漂着は1990年に福岡県で確認されている (石井 1999)。ヒルギの仲間の胚軸は落下後、母樹の近くで泥中に挿されるより海水により遠方へ流されるのが主である (正宗 1956)。

愛知県渥美半島の太平洋側には砂浜海岸が連続し、通称片浜十三里と呼ばれている (田原市 2008)。また太平洋に面する海岸一帯は、数多くの漂着物が打ち上げられる場所として知られている (林 重雄ブログ)。愛知県田原市の海岸で、オヒルギの漂着を確認したのでここに報告する。

漂着記録

筆者は2019年8月17日、愛知県田原市赤羽根の海岸で (図1) 漂着物の調査中に高潮線に沿った漂着物密集帯でオヒルギの漂着を確認した。

発見時 (9時) の天候は晴れ、最寄の伊良湖のデータによれば気温29.5℃、西北西の風、風速1.2m/sであった (気象庁ホームページ)。ただ15日に台風10号が中国地方を横断したために南寄りの風が吹き、平均風速は15日が8.2m/s、16日が6.9m/sとなり (気象庁ホームページ)、多くの漂流物が寄ったものと思われる。

オヒルギの胚軸は両端が欠損していたが長さが204mm、幅が最も太い部分で15.6mmで、質量は28gであった。表面の色は暗灰緑色で痛んでいた部分は赤褐色であった。また胚軸の表面に光沢は無く、断面はやや八角形となり、8本の稜が見られた (図2)。表面には2~5mmのカルエボシの付着が認められた。

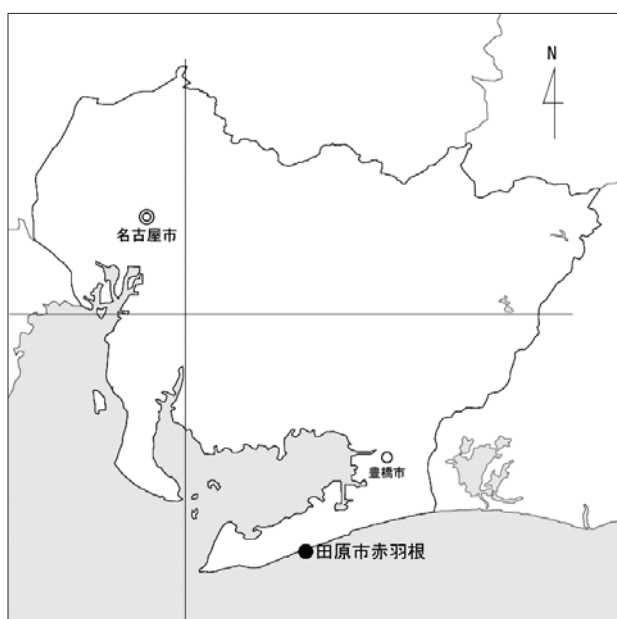


図1 愛知県田原市赤羽根の位置



図2 愛知県田原市赤羽根に漂着したオヒルギの正面 (左) と裏面 (右)

随伴して見られた漂着物は、直径が1～3 cmほどの大量の軽石で、高潮線上で重なるほどの密集帯もあった。南方系植物種子・果実では、ココヤシ、ニッパヤシ、シナアブラギリ、ククイ、モモタマナ、ゴバンノアシ、サガリバナ、サキシマスオウノキ、ミフクラギ、ハマナタマメ、ナガミハマナタマメ、ワニグチモダマ、ヒメモダマがあった。随伴していた果実にはマングローブ林で生育していた種も多い。ほかに人工物では台湾の電話番号の記されたプラスチックライター、台湾製の三菱の薬壘があった。

これまでに渥美半島ではメヒルギ、オオバヒルギの漂着が確認されているが(林重雄 2017)、今回オヒルギの漂着は1個体のみなので漂着の確認記録にとどめたい。

謝辞：本稿をまとめるにあたり亜熱帯植物研究所の中西弘樹先生にはオヒルギ属について教えていただいた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 林 重雄. 2017. 愛知県渥美半島にヒルギ類の漂着. 漂着物学会誌 15: 19-20.
林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2019年8月22日閲覧)
石井 忠. 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2019年8月12日閲覧)
牧野富太郎. 1996. 改訂版原色牧野植物図鑑. 588pp. 北隆館, 東京.
Mangroves of Singapore ホームページ. Bakau putih. (<http://mangrove.nus.edu.sg/guidebooks/text/1053.htm>) (2019年8月12日閲覧)
正宗巖敬. 1956. 植物地理学新考. 166pp. 北隆館, 東京.
中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 211pp. 平凡社, 東京.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志. 2000. 日本植物種子図鑑. 642pp. 東北大学出版会, 仙台.
瀬戸口浩彰. 2016. ヒルギ科 RHZOPHORACEAE. 改訂新版日本の野生植物 3 (大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩 編). 338pp. pp.145-146. 平凡社, 東京.
田原市. 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.

(Received Sep. 10, 2019; accepted Sep. 30, 2019)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan